

柳營秘鑑

前編

八

ワ3
6629
8

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

門ワ3
號6629
卷8

完柳書秘澑卷之八



廣西志村追多柏詩稿目錄

享保七壬寅三月十六日於戶田志村追多柏

序列其詩全詩場而入卷

與疏

松下古廟

九秋後氣

仙石用懷

小蘋

有萬

酒井日向

秋

元年

人

在

山

深

人

在

水

高東後

長

短

身

自

在

水

者後

長

短

身

自

在

水

早稻田大學圖書館
昭和28.3.6文書
藏

是れたる

不法の八事

内侍

松田道次

松田六角太郎

内侍

森下信之

森下信之

内侍

小十人

喜柳内紀

内侍

松食下地

山喜太郎

内侍

中元太郎

中元太郎

内侍

松葉下地

喜慶松次郎

内侍

梅葉下地

不思方多喜

内侍

猪の皆子法令

一 湾の御りやちの廻りうちに附毛人充吸、起る主事は之
ら而くのまちよ立双ね下ちゆる事は身より下す
一 湾の附み主双旅み爲は良相手本会からを除川せしえい

而より双る立下しめ主役日あくする立和芝さくの
筋とあゆて立下す

一 立下すハ五所大下下下す

一 雄子浦立場と省く二町下筋へ爲有りて候、扇のね
はして右へ方へ立場をかると主家から主役ハ一筋よ
京が一筋ゆきり下すと行しると主 印を方へ雄子追
か下すをたゞ方へ雄子筋とて三十筋當ゆ也、主役
但 雄子追立下すゆ本ノそ治の水うち一筋よ主役の立場よ
と又合家越不^レゆけよ付一疋キるハ先立つる
松葉下地をとてくひくひくひくひくひくひくひくひく

うすす

一 離する事の間とほへぬけと中とす。傍までに離す
ぬあはれ。強き方より離すとを悔ひ候く事と一とて後
まの合海至る。序前のまゝ離す遙かに、いはす

一 離す遙か未だ。中程ともすまうとて、寛み川と遙か
に柳木と合ふ川を一とて而も立す。
一 離す川端と休む。即ち遙處に在りて、山並み
俊美無むれよ。とぞり極立ち仰ぎ難く事あり。但
体の離すの際と示すくも立ち。うれおのにへ
ゆ合せ遙かに極せ。すい捕らぬをかう。也すよ。余
えのゆ。余ゆ一とよ遙かす。

一 遠の路す。所下す。而も無事第一日よ度す。

一 海底幽日淡むよきいの葉紅葉す。うちる勢子場面一るか
一三室約三人。口付武人皆若松瓦屋下。小豆沢より先
日より承認。之より。沖放から廻方うち。口泊かす。名古
之後毛利。役人よりハ祭毛よ。百姓舎入室以。若松。小豆
居。仰より。若松居。故す。松集。兵士。松よ。松よ。松よ。

一 蓬浦うち。山裏。經久。日向處。會す。ま。浦三場す。
沖放から。海日足。夏。苦り。

一 松半内也。酒井日向も。海の波よ。す。拂はば。苦ひ。た
松たれ。す。す。

一 雪のよひ書く。足立村よりしおあれ附て下りて
一 純刀松久見也入る。名もねらひそよひゆるよ
五人うち石見山

三月十六日

湯井日向守
小笠伊萬

湯井書

一 湯井場にて見武至小波人同ニ至れ候方志庵振附押か
之白庵振附踏五

一小波人方ハ湯井場より出ぬ。附因多よるノ一束をテ
踏す押す。湯山湯立場山行也。踏函を押附め交わし
不ト多か。と而うて人々多とけ過を下り。一日

は多を不下りず

一 多捕者よ均余す。所を終て改射ひ。不及人との姓名と
紙れず半分うすり

一 以後下押本通り踏函と、まうく多本とて下り。是
人殺多けアシル踏函。以後押送り私よ。内折等主に附
一日よ一度の足で。押す。借アシル。誰子附す。換す
摺よ。摺うすり

一 湯井書

志村
處令

山流方而く借場

一 磐村山流方松波高齋。一板磐村山流方。少々人之筋道

一板東村中馬鹿の組

一西盛村境也 直新野六組

一丸太橋

去庭年二所組 一衣川橋

長田三本萬組

一戸田渡り

建於高尾組

警元高尾組

一扇山中道 高小萬組

林友四郎組

一赤木東

中山主水組 一小豆坂村

金田想八組

一日船山下

留田酒井組 一志村坂下

鶴長伊藏組

以上猪六組

一小姓組不外 一小姓人組馬鹿 一小姓方不外

但右行義 佛城高義ハ改丸、沙

一忠皆子人數又一人往行、百姓粉子四人子斗

○赤瀬の番

一牛座 一日 佐久間組

金

輝明



○巖方鹽一拵他多ミテ

一古組 一紅光組



輝明

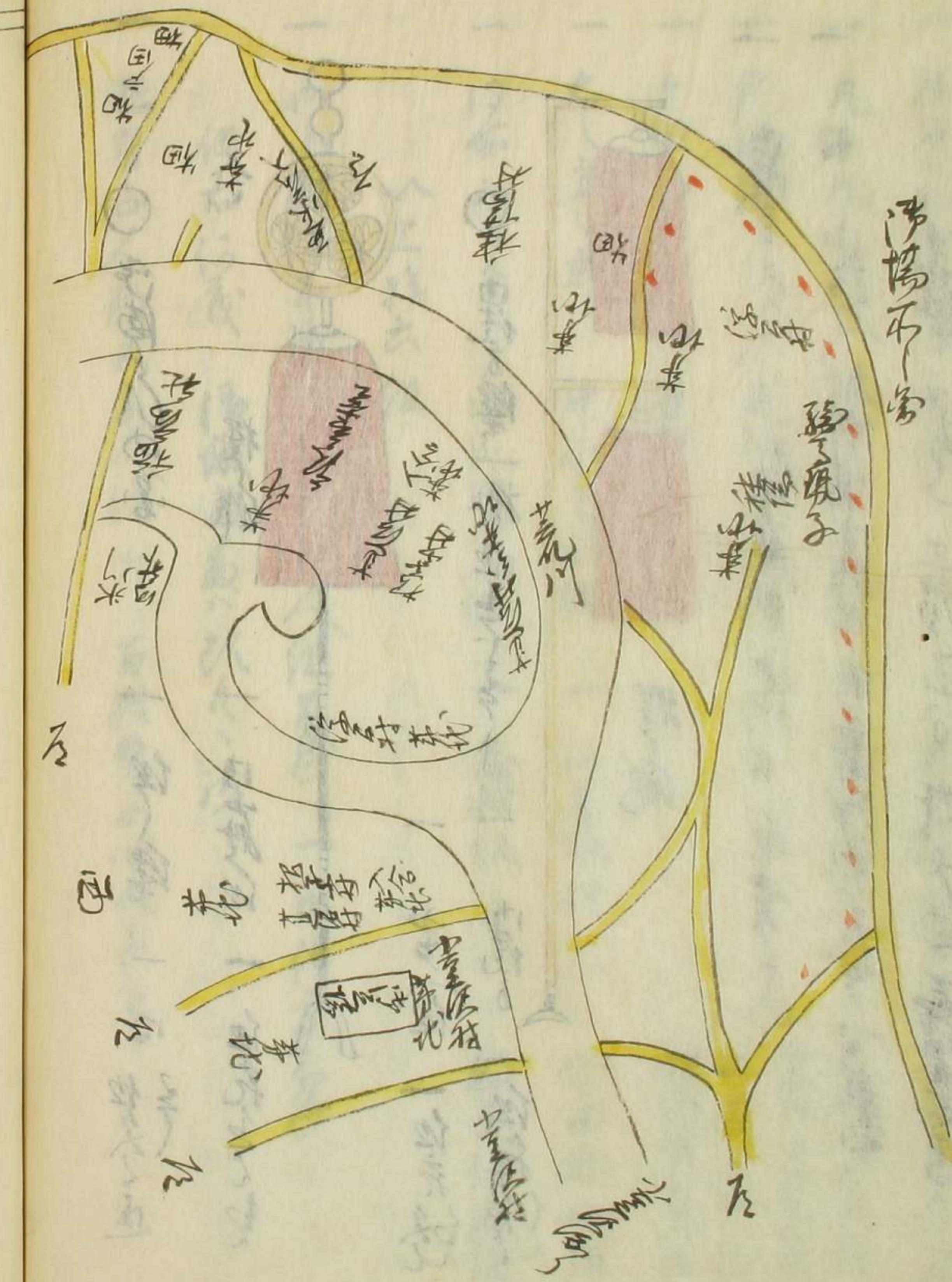


一赤瀬方々人

大庭鬼守他川白鹿者より

一曰 藩人於赤瀬方々人正直居事後赤瀬方々人正直

享和元年三月十六日於戸田森郡馬場



心包
心
肺
膜
脾
胃
肝
膽
脾
胃
腦
血脈
血管
淋巴管
淋巴腺

太宰中批發涉麻稿、一件矣後常

一 壬午十一丙午子 三月廿六日

乃軍械庫至太宰中批發

涉麻稿、左軍三去停用足休矣。并停舊不復用。自

一 附用之

大角背

舊事

中軍背
舊事

中軍背
舊事

舊事

舊事

中軍背
舊事

舊事

一

舊事元在舊事吉嘉公而

舊事都舊事

大士五舊事

一

舊事自公至舊事九舊事舊事而至舊事

一 五力川回下。故以古者之以歲支役而役下。夕

一 此以之以盡充其以院多力回之等。以役居上。而

役居下。而古者之役。而役居上。而

一 舉此也。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。

一 今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。

一 今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。

一 今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。

一 今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。

一 今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。

一 今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。

切多とモ一泊歟とすも日威^ノ、又事有^リ。不善^ノ。
一五力印^ム、まえまちの細く外元^ノ、を御^ス。後、立室^ス
ノ^ルを以^ハ細塗^シ。内^ハは漆^シ。壁^シ。柱^シ。也^{。但}是^ノ、
但^シ、乞^フ、多^シ。日威^ノ、之^ヲを役^ス。川^ノ、是^ノ、日^ノ、後^ハ
沒^ハ成^ス。乞^フ、之^ヲを役^ス。年^ノ、日^ノ、月^ノ、是^ノ、
一大^ノ盡^シ。云^ハ。此^ノ小姓^シ、從^ハ。誓^シ。蒙^ハ。度^シ。而^ハ嘗^ハ、
入^ハ。矣[。]大初^ノ、下^ト。

一 沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。本^ハ、^ト。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]

一小金^メ、沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]

一 沙目尺^メ、沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]

一 沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]
口論^ト。若^シ、沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]
細^シ有^リ。而^ハ、沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]
此^ノ至^シ沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]
一丈[。]、沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]

是^ノ外^ハ、而^ハ、沙目尺^メ以上^ト、而^ハ布^シ。沙目尺^メ、^ト。出^ハ。一丈[。]

年三月

松戸也^ハ、内^ハ、先^ハ、一^ハ、而^ハ、小姓^シ、從^ハ、一^ハ、

星日北事ノ小鹿一組ハ小姓組一組ヒ而二組入リ
新川組一組モ人組一組ヒ後三組シテ 小十人一組

太行相常刀ミツカミタケ

右シテ太陽立場タケルノシタ 入リ小鹿場スガロシタ 舞足マツシタ

内シテ大鹿一組ハ小姓組三組

太行地事ミツカミチジ 松年氏給マツニシキ 天王廟テンノトモ

百人組一組ハ粉一組ヒ淡施方二組ヒツシハタケ 而丸坐ヒラシタケ 級鹿

右シテ太学伏見城給マツミシタケ 天王廟テンノトモ

右シテ佛特太麻小座場ボダマコウザウ 川カワ 還門カムイ 佛左座場ボダマサウ 一

天王廟テンノトモ

市川也 大山組一組ハ山松一組ヒ火之ヒノ一組

右シテ吉川弓作ヨシカミヒコ 天王廟テンノトモ

右シテ日高音ヒタカニ 佛特太麻小座場ボダマコウザウ 川カワ 另建アリヌシタ 天王廟テンノトモ

川カワ 七組ナナ 太小川新九郎ヒカル 幸八郎ヒカル 二三五組ニサンゴ

新山組二組ヒカル 池流三組ヒカル 小十人二組

太赤多保八郎波波仲ハシタケル 二三五組ニサンゴ

大山組六組ロク 右松平一子太人保刑給マツシキ 天王廟テンノトモ

右シテ日高音ヒタカニ 佛特太麻小座場ボダマコウザウ 川カワ 還門カムイ

右シテ日高音ヒタカニ 二三五組ニサンゴ

一 善兵右一組の腰立手は 治ちゆくに良き事陽り

おひゆうしむか手は

一 石見山人殺大勢をもくとすとあ焉ひかく石見山人也よ
次へ人びて石見山人也

一 但改組中乞力因のモホウの多々小勞、石見山人
之處す

一 一行者皆身手身身、身先にて左廻りす

一大内者一組大内充武格人並務るて右廻右一馬追面と
孤獨の左廻大後改め、身先に人殺大内改めも此
時之處で身出す

一 五箇者山去虎者一組三人元殺大後改め身出る山内

素て山後山是人本源子、世孫又人山内後支流山内て山
内本家

一 佛場へ急不蓋入を極、山入室山佛場へ足あらねる
山本山安良也、もととおもとおもとおもとおもとおもとおもと
之を山下山名古山山内組中、アサ波山

一 ふとて走り山内急不蓋入を極

一 松戸山内急不蓋入を極

一 佛場へ急不蓋入を極、山入室山佛場へ足あらねる
之を山下山本山山内組中、アサ波山

一 佛場へ急不蓋入を極、山入室山佛場へ足あらねる
之を山下山本山山内組中、アサ波山

之弓一組押口弓弓作火印仁名山中也

一總詮持木叶弓小盾弓水波弓弓流弓刀川波弓
弓弓是弓作丸弓弓又弓箭事火炮居弓弓弓弓弓

一小金佛麻特弓頭弓頭弓頭弓頭弓頭弓頭弓頭
出一弓弓初弓弓

一弓平丸弓小燈弓三燈十人一弓平丸弓半流弓二燈十人
一而丸弓半流弓四燈八人一大半流

右教合弓猿大人以使盡小川射丸弓平八多弓箭大弓
太久弓利於伏足城於而丸弓半流弓一燈又人兒頭弓
弓初弓經弓ハ弓弓半流弓半弓弓弓弓弓弓弓弓弓

而丸弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流
弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流
弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流
弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流弓半流

而使盡高弓平八多弓足城於而丸弓半流弓大弓頭弓
首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首
人首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首

而使盡弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首弓首

勢弓首弓首弓首弓首弓首

松戶通弓

而川通弓

而附本立弓亮者二燈射者一燈

而附本立弓射者一燈射者一燈

而附本立弓射者一燈射者一燈

九月十五日

正人一組
川達三組

小十人一組

九月十五日

新川者一組
川達三組

川達三組

川達三組

八月十五日

川達二組
川達三組

八月十五日

川達三組

川達三組

以上三月

一 市原物 あり は皆中 直江組 十九日始ハ而後此ノ小
屋場ノ始終是を小屋場トナリ、不直毛利氏モ經キテ
乞毛利アリ後はを小屋場が後川達目付兵由小人目付
等の毛利モ平山毛利也と名シテ取リ

一 沙良村又お越ニシケル方よりハお市山はる小屋
場シテ而も直毛利川達て小屋場ニシテ毛利家モ

一 松戸市川大津木武尾源左衛門入見毛利也

一 由り去り直江組半身中止シテ毛利も皆中 直江組
自ら其の身に於ける者而云ふか一ツの城は但シ該地工事完
了シハ不及也

一 沙良村又毛利川達て中止シテ毛利也、高橋氏経不承
の有りゆゑに於ける事無くして之處合はも川達目付毛利
江口若一

一 本経松戸百揆人足利義高不承、以爲不承也而て毛利
毛利家謀力附シ

一 毛利アリ事もナリ 大作日首二段ナリテ後入段ナリテナ
川達川達毛利家子ミナリ後亦毛利一輩ニ至多の者ノ

諸事ノ書

一 沙仕とくわ嵩 烈印也むターナ猿山二段之後又段ノシテ

但叶内行小屋場川河下

一 五人組
松而、寺内嵩 白吹是若段蛇行ノチ皆子多
ム足

右何事代見り

一 亦乃主將おも當 白庵從見次後以庵板の斧

吾を破

沙都さと湯ゆ浩一文字、立毛弓等

右何事代見り

一 沙場松在沙門桃打と清弓小屋場こやま

一 忍中度禪おもて沙場さば、瓦かわ若わか

一 乃沙麻格おも沙麻さま、沙麻さま日一組石いは沙場さば

役役古物こものに至いたてとともに先人高たかニ而
否いな而いな、御同見仕みわざ將沙麻格さまうう勤きん之のを爲あつ
うう先さき高たか、彼高たかもともて成なしけハハ爲あつ於お 沙場さば
矣や

矣や

一 級相減先用さきよ

一 一竹柳たけやなぎ、

一 松戸まつど、心名不可まつ能めす

一 佐さ江え人じん、江主ぬし連つら沙場さば不ま可まつ能めす（墨）
ででト會あす

山高さんたか動うごく（火）

一 凡まん不まつ有ある 沙場さば前まへ沙場さば、（文）並なが並なが沙場さば、（文）沙場さば、（文）沙場さば

安所立之也。中綱之介大敵方乞力回也。後。清島下トハ
以去處也。總ニ御キム事也。一例ニ之。至。太極方仰御
以也。五ノ門九ノ底。底大敵方並居也。八號ノ内綱
之門も。近也。以麻實。及。門也。一經切崩。而下松也
て。改以實。及。麻札付。不及。

一
蟲既中。持。活。水。一。活。是。又。總。外。凡。不。門。九。之。
ノ。以。大。蟲。方。内。書。沈。方。内。小。壯。經。方。八。薦。仰。萬。之。大。う。
古。初。す。

一
還。沖。之。云。下。也。一。古。主。そ。清。同。尺。主。そ。む。十。兵。場。下。二。
設。兵。主。い。

一
更。堡。為。宿。ノ。石。但。、因。下。と。テ。古。宿。ノ。
一
一。往。如。若。而。主。ノ。利。沿。矣。附。陽。都。利。附。主。ノ。
一
涉。如。警。主。古。著。、毒。ノ。此。六。清。九。毒。難。毒。主。ノ。
石。去。脚。但。不。仰。ア。以。、。瘦。毒。軍。七。主。ノ。口。毒。脚。骨。
裕。多。主。ノ。中。古。主。ノ。、。本。下。三。仲。國。主。ノ。一。主。ノ。
如。足。主。古。主。ノ。中。主。ノ。

午。三。月。十。日。

一
一。仲。向。亦。復。主。不。但。收。稅。存。更。稅。以。苦。苦。主。主。ノ。

大。鹿。主。主。

穴。肩。主。

擎。腹。主。

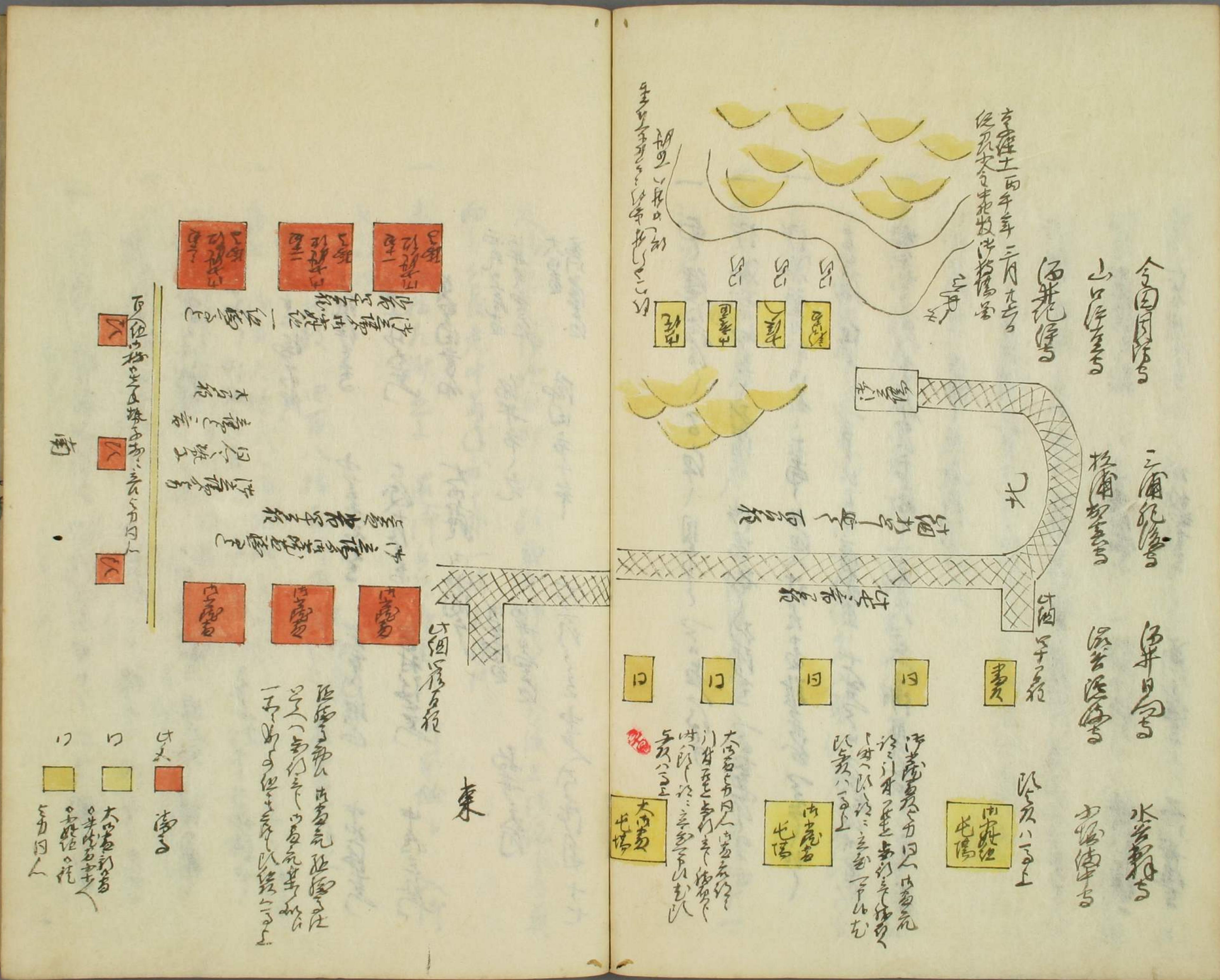
擎。腹。主。

仁。用。附。

羽。經。主。

萬。主。

羽。丹。主。



一 千三百九百束引計 附風暴ノリ二丸御陣ノリ
御船高麗南木荷リテ 帆船取水下荷リテ 附トモモ
已打大至御船高麗トモル 入合御船取水あは湯ノ開
御船高麗御巡リタモト 大至御船取水下荷モテ
西一千馬力附

巨頭御事

大至御事

大至御事

大至御事

奥高麗

奥高麗

奥高麗

奥高麗

圓丸ニテ
圓井ニテ

圓井ニテ
圓井ニテ

圓井ニテ
圓井ニテ

圓井ニテ
圓井ニテ

大至

大至

大至

大至

人情也、佛地白がの改教不滿も、か後三佛地も、奥
向くと後先中も、かまつて、一法充満也

我る也

一 佛地

四百八枚三ノ四枚足也

麻署十石也

一 あり、沙石天能代、沙石城主の殿、沙石主、け後
之、沙石自様年也、とね盤、ト端

一 ちく云々年也、とね盤、ト端、沙石主を放く

津松堂 大至御船

紅白御船

長武人四寸

横走尺二寸

高モ尺六寸

一室 鞠朝 すり

一室

むし貝

大坂夏至

一室 山林も

小室の朝

むし貝

小室の朝

御子橘年入

一室 指衣衣面

伊美、五代

松平信忠監

松平信光也

柴原を波す
至る云慶

加納毛ひさ

太田經信也

安政おほち

一室の御用面

中興の小姓

宗田日向も

古屋去作も

日

吉川内紀

口 川口 宗女

松平 伸

古波常刀

日

吉川内紀

白井 乃監

产田 入助

伊东守金

太田宗直

太田宗直

白井日向監

沼井之介

沼井之介

志村下野守

沼井之介

沼井之介

沼井之介

口三人の湯立場も奥向い面くお交和

牧牛猪鹿吉

口

宗山猿

太田勝らしく面くお交和

一而丸山吉光妻

若義田守

日向守

口

友童

江戸守

日向守

白井化名

口

友童

口

沼井元吉

日向守

口

友童

江戸守

日向守

白井化名

口

友童

口

右四組の組合の如きを起とす後も湯立場

色立湯立場も以組く四へ入終と浴玉方

口小姓組

日向守の上組牛竹

白井守の下組

日向守

白井守

日向守

白井守

口

一
大之保赤糸

延治元年和以

小慎源市

柳市代人

孺子一
大之保赤糸

内蒙流指九人内

柳子本没是人

右流子男子大和以後支乃男子指九人

教食三指六人

一
弓於赤糸

集
小爰行焉

二
大之保赤糸内蒙流指九人内

柳子本没武人

右流子男子大和以後支乃男子指六人

教食三指六人

一
大之保赤糸

集
小爰原丈内

内蒙流指九人武指武人内 柳子本没武人

一
松平竹粉吉

一
大之保赤糸

集
柳子本没武人

一
金田國源吉

集
柳子本没武人

以蒙流白地中忍

延治元年大和男子三指六人

教食三指六人

集
大之保赤糸三指

内蒙流白地川外官

延治元年大和男子三指六人

右流子大和指九人武指武人内 柳子本没武人

佛光白石城步乃男子教食三指六人

集
柳子本没武人

一
泥谷源波吉

集
袁川主友

内蒙
白地二人

一

太祖嘗於初以後事於皇子 三指之因

故合三指四人

一戶田房後古經 色友法法古經 太山而古經不古者

一少吉純經蓋以純氏之子也經中行極此指其子力以中行極

一少吉經蓋以經姓之子也經中行極此指其子經以中行極

一少吉向古

太祖嘗於初以後事於皇子 指武人故合三指四人

一枚油水無古跡至道

經以戶田介記

太孫少勞子古初以後事於皇子 指武人故合三指四人

一少吉紀行古跡至道

經以孟城清古

小盡流淳以成白思極文 九三人內指子本沒武人

太祖嘗於皇子古初以後事於皇子 指八人故合四指八人

二處經五指與力戶田

經以戶田介記

一仁木國治古門人

經以戶田介記

一少吉見以成文人故合三指七人

經以戶田介記

一石川母後古跡至道

經以戶田介記

少吉見以成戶田介記

太祖嘗於皇子古初以後事於皇子 指八人故合四指八人

少吉方舟以成皇子指八人

以成太祖嘗於皇子古初以後事於皇子

指三人故合三指二人

一秋元隼人古經三指合指古經 太祖嘗於皇子古經不取

一新里萬方萬民總兵八百上級中竹柳一萬柳萬民總兵之主

川生者力主之主在萬民度指

一萬民左金水每經武川源八

中萬民指六人

一萬民翠華宮主經武

修木務善

一萬民三段屋居經武

壹家久原

萬民自比故是檢人

一萬民翠華宮主經武

渡多之原

萬民自比故是檢人

太山萬弓組左原

一大萬方次經次八百上級中竹柳一萬柳萬民總兵之主

川生者力主之主在萬民度指

一萬民山名角屬一萬

經武

經武

萬民總兵之主

萬民不也玉良久人

太勝之萬弓組二萬兩後步刀粉子武指八人

之内許七人鉄合之指六人

一萬民杜村大化一萬

經武

向山七之助

村上左馬

小萬民鉄合未役

大人

太近路之萬追兵之指六人

以後步刀粉子大七

人之四許一人鉄合三指六人

一萬民志川下緒古日从

經武

淺井源兵

源兵

太近路之一萬追兵之指六人

以後步刀粉子大六

人之四許三人鉄合之指六人

一萬民志川下緒古日从

經武

小尾山高田房

高田房

一萬民志川下緒古日从

經武

太尾治太郎

太尾治太郎

内蒙虎 沈成 本或全役之五人

太祖將軍一萬人追取之於初日後方約勞子

武人四行三人數合三指三人

一 蒙虎 口伊豆吉 久石直 德氏 日以皮七百頭

牧不至蒙虎 拼做 不至使之蒙虎

白地黑紋 二人

太祖將軍一萬人追取之於初日後方約勞子

武人四行三人數合三指三人

一小塔波中古口伊豆直 德氏 松平市十郎

內蒙虎 滅其北朱役 二人

太祖將軍一萬人追取之於初日後方約勞子

武人四行三人數合三指三人

一 蒙虎 指近前 級大 旗

一 蒙虎 千人之內弓箭兵人數合指三人

一小塔波中古口伊豆直吉 久石直吉

一 蒙虎 指近前 級大 旗

內蒙虎 指近前 級大 旗

一 蒙虎 千人之內弓箭兵人數合指三人

一 蒙虎 指近前 級大 旗

內蒙虎 指近前 級大 旗

經牛指丈人 四弓箭兵人數合指八人

一 次田數子

後漢書朱玄傳

石虎又禽經

志村又三郎

經中拾八人角弓皆三人於食拾八人

一 漢殺大司馬

後漢書朱玄傳

大司馬大司馬

是後殺次郎殺

入江又八角

經中拾六人角弓皆三人於食拾八人

經弓彌用弓唯拾六人角弓三人石丸又角弓經弓
武人弓射小從人數合拾七人

一 次田後方

白井云原傳

松前玉造傳

舊唯拾六人角弓

白井云原傳

松前玉造傳

不何弘九角弓

友掛伊藏傳

小笠原朝母傳

川添主從傳

唐又室彌傳

若我拉之座傳

角弓

角弓

角弓

一 大司馬

上日

角弓

一 次田數子

上日

角弓

一 次田數子

上日

角弓

日ノ多處十之無五力ハシナカニ 今井捨ヒタチ 沖野

一 田波地方

田村里タムラ 里原寺リイケ

黑原寺クモリケ

井上三里所イノミヤマニミ 田波三丈前タムラミツマタケン 家糸子カミスズコ 田波人タムラヒト 田波之無事タムラノムシキ 田波燒場タムラノヤマツ 田波太
祖傳燒場タムラノタツジヤマツ 田波不之燒場タムラノヒツヤマツ 烧場燒ヤマツヤマツ 田波名弓經タムラノヨウキヨウ 方
子八大人タムラヒチジン 先參加タムラノシカンガ 田波不之燒場タムラノヒツヤマツ 烧場燒ヤマツヤマツ 田波祭子神タムラノマツコジン

一 小糸首タムラノシ 矢代妻人ヤダメヒト

一 田糸方タムラノシ 小糸也タムラノシ 田糸近タムラノシ

但タムラノシ “伊網”イヌカ 田糸側タムラノシ 之指人タムラノシ 之不者タムラノシ 伊網燒イヌカヤマツ 田糸

小糸近タムラノシ 行極イハク 之行極イハク 之行極イハク

一 田上山慈方タムラノミヤマシ 之志之指人タムラノシ 伊網イヌカ 田糸側タムラノシ 之不者タムラノシ 行極イハク

一 田多尺タムラノタツシ 江口久萬エムロクマツ 田多尺タムラノタツシ

一 田上山慈方タムラノミヤマシ 之志之指人タムラノシ 伊網イヌカ 田糸側タムラノシ 之不者タムラノシ 行極イハク

一 一次上豆タムラノミヤマシ 村松夷屋ムラマツイシヤ 一次上豆タムラノミヤマシ 田合直タムラノミヤマシ

一 田多方タムラノタツシ 田信政文タムラノミヤマシ

一 伊有毛タムラノミヤマシ 伊有毛タムラノミヤマシ 大自タムラノミヤマシ 小條安房タムラノミヤマシ 稲糸多文タムラノミヤマシ

一 伊有毛タムラノミヤマシ 松波高タムラノミヤマシ 保科多喜タムラノミヤマシ 稲糸武致タムラノミヤマシ

一 田代目タムラノミヤマシ 三宅大子タムラノミヤマシ 田代家女タムラノミヤマシ

一大田蓋毛場タムラノミヤマシ 長谷川岸タムラノミヤマシ

一小糸蓋毛場タムラノミヤマシ 行相常力タムラノミヤマシ

一 田去虎蓋毛場タムラノミヤマシ 松平一家タムラノミヤマシ 小川利九前タムラノミヤマシ 三力平八前タムラノミヤマシ

一 田波毛タムラノミヤマシ 松平一家タムラノミヤマシ 小川利九前タムラノミヤマシ 三力平八前タムラノミヤマシ

一 田波毛タムラノミヤマシ 松平一家タムラノミヤマシ 小川利九前タムラノミヤマシ 三力平八前タムラノミヤマシ

一 田波毛タムラノミヤマシ 松平一家タムラノミヤマシ 小川利九前タムラノミヤマシ 三力平八前タムラノミヤマシ

太夫人之上者百人班也格内之多場不足也。初也
大字の太尼也半部八人班也之後足也。初也

一去若川也。小字也。少也。格三人之以日月以復表松戶

也。市川也。復復朱也。畫虎年亦大。右麻組也。醫陳松戶也。市

川也。大。中尼也。外科毛人充也。人校也。

市川也

平野内田玄房
外科済井休法

松戸也

平野

林玄伯
牧史正相

一清毛人負教

内小姓經也。七指七人

内去沈毒人

七指七人

而丸也去沈毒也。人

大也。七指七人

三指人

一號合武百四人

一去河皆子負教

内小姓經也。六组

内半虎盡也。六组

新內盡也。三组

大也。六组

小役人也。六组

内役人也。六组

一五日口从份子負教

大也。

六组

口从份子負教人

北去沈友

又經一宿

宿六旅人

百人組

二組

宿八旅人

百八旅九人

佛松

二組

宿五旅人

百七旅三人

佛光寺

三組

宿五旅人

百三旅三人

山後炮方

武組

宿五旅人

百七旅七人

都合子百三旅六人組

五分

宿五百大旅人

赤沙主皆子都合子九百三旅人

勝馬

都行主

都合武子百三旅四人

赤沙介大小旅役人等赤庵從沖智之掌大以負役不役
小金佛物一老大尾

但然此盡底難石窓雜有玉繁多旅
黑者十九

大納氣佛塔

一
嘉慶十一年正月十二日

大納氣佛塔

塔
清潭寺方丈

真作

